



ビジネスと人生(二)

David K. Reynolds, Ph.D.

dkreynoldsjapan@gmail.com

道元禅師の典座（禅寺で、床座や粥などの仕事をつかさどる役僧）への指示を取り入れた、役員、管理職、社員など会社で働く人たちへのアドバイス。

森田正馬のことばー「アドバイスをしてくれた人には礼を言うべきだが、アドバイスに従う義務はない」

◆なぜ、優秀な社員になる必要があるか？

- ・相当長い時間仕事で人生を過ごすことは確か。
- ・給料をくれる会社に貢献しながら自分も成長することができる。
- ・注意を払って働くのは会社と自分のためになる。いい加減な働きはどちらも手に入らない。
- ・怠けると会社にも自分にも余計な費用がかかる。
- ・仕事を身に付けていくことが、いろいろな意味で人生の仕事といえる。

◆目の前の仕事に焦点を合わせる

- ・他の社員と自分を比べるのは、過去の自分や理想の自分と比べるのと同様に全く無駄なこと。このような比較には“我”があり過ぎる。
- ・自分ではなく目の前にある仕事に焦点を合わせる
- ・ベストを尽くすことは比較にならない奉仕。
- ・ベストを尽くすのは他のだれもできないし、だれもしない。自分しかやり遂げられない。
- ・ときどきこの真実が解り、ときどき解らないときもあり、ときどき自分の足元にある真実を見逃す。

◆状況に答える

- ・状況にうまく対応することは、環境を作り変えることになる。
- ・自分を取り巻く事実を形づくる最中、事実自分に自分を形成させ、事実が自分を形成する間に自分が事実を形づくる。
- ・あるがままの現実と協力し合うことが状況を変え、自分を変える。
- ・自分に自身をフィットさせ、道路を横切る前やエレベーターに乗る前に状況と自分をよく見る。
- ・高い志を編集の仕事に持ち込み、神への供げ物として仕事に向う。
- ・広い視野から小さく見方を変え、さらに、視野を広げる
- ・目的に向って、人生の借りを返し続ける。
- ・人生の借りは想像以上で返済をはるかに超えている。

◆大きなプロジェクトは小さくできる

- ・完成した書類を別の部所に持っていくのも書類仕事の内に入る。
- ・コンピューターを消す動作もコンピューターワークの一つ。
- ・旅費を正確に計算しておくのは、出張の内に入る。
- ・就業後の消灯は実際の仕事の一部。
- ・髪をとかしたり、手洗い、シャツのボタンをかけることも仕事の内。

- ・ どんな事柄もうまくやる価値がある。

◆仕事の流れに乗る

- ・ 採用されてまもなく、仕事の流れを知る。
- ・ 流れをうまく使い、他の社員に手本を示す。
- ・ 流れをうまく使うというのは、他の人のリズムに合わせて動くわけではない。
- ・ 同じ職場の人から仕事を学ぶのはとても役に立つ。
- ・ 他の人のやり方を知って仕事の効率を上げる。
- ・ 他人が自分に期待すること、他人に期待できることを明確にする（期待は最終目的ではなく、単なるガイドラインで、一情報にすぎない）。
- ・ 知らないふりをせず、必要な情報を捜す。
- ・ それぞれの人の立場に押されないようにし、それでいて他の人の教訓を無視しないように。
- ・ 何が起きているかを知り、自分が決めた必要なことをする。
- ・ 自分なしでは、どんな状況も存在しない。

◆計画を立て実行するには

- ・ 計画の実現を放棄するほどたくさんの計画を立てない。
- ・ この瞬間に生きることは計画や希望、目標なしに生きる意味ではない。
- ・ 計画を立てている間、そのことだけにとらわれない。
- ・ 計画を進める際、事実の反応を考慮する。
- ・ どんな理想があっても現実的、実際的な目標を立てる。
- ・ 達成可能かどうか分かるよう十分に具体的な目標を立てる。
- ・ 結果はコントロールできないが、努力する行動はコントロールできる。

◆優れた上司になる

- ・ 管理する部下たちに尊敬される優秀な上司になり、自分を管理する上司を支える。
- ・ チームワーク（共同作業）では自己をなくし、自分のために自己をなくしているチームのメンバーを励ます。
- ・ 事実の仕組みには自分の代わりになる人はいないが、会社組織では代わりになる人はいる。
- ・ 自分がいなくなったとしても仕事がうまく遂行していくか確かめる。
- ・ 毎日社員に働いて稼がせている間に自分も働いて稼ぐ。
- ・ 朝、オフィスに着いたら備品や仲間の従業員たちに声に出すか、無言でお礼を言う。
- ・ お礼をしながら備品や従業員からその日に受けるサービスを具体的に予想する。
- ・ 退社時には、その日に受けたサービスにお礼を言う。
- ・ 会社で孤独感や孤立感がある人は現実を観察していない。
- ・ たった一人だけで仕事をした人はいないし、自力で出世した人はいない。
- ・ 仕事の成功は常に事実からのプレゼント。

◆他の人の援助を求める

- ・ なにもかも自分だけでできる人はいない。会社に関わるすべての人が必要不可欠。
- ・ 援助の担い手になると管理能力は上がる。
- ・ 他人のレポートやインターネットから知った世界ではなく、実際に仕事する世界から自分が遠くないよう注意する。
- ・ 顧客や従業員との現場での接触不足は、事実無根の理論や失敗の言い訳、お粗末なサービスを生むことになる。（次号へつづく）